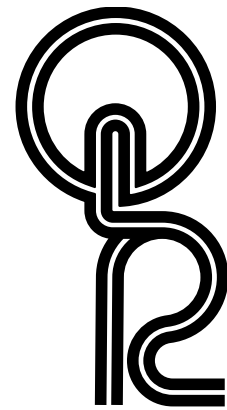


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 10 No.1, 2003



中国雲南省元謀県に発達する土林。元謀盆地底に堆積した第四紀層下部の砂礫層が、挟在される細粒部をキャップロックとして鉛直方向に侵食され、土柱が林立した地形をなしている。地層中からは珪化木、大型ほ乳類の化石などが産出し、付近には元謀人化石の発見地点もある。(参考: Urabe *et al.*, 2001: Quaternary Science Review 20, 1671-1681.) (海津正倫撮影)

Vol. 10 No. 1

February 1, 2003

2003年合同大会情報 ..... 2	国際会議の案内..... 13
シンポジウム報告..... 8	第四紀研連報告..... 17
巡検報告..... 9	古生物研連報告..... 18
ワークショップ報告..... 10	幹事会議事録..... 18
紙碑..... 12	会員消息..... 19

## 地球惑星科学関連学会 2003 年合同大会のお知らせ

地球惑星科学合同大会運営機構  
地球惑星科学関連学会連絡会ニュース No. 27 (2002 年 12 月) より

### § 1 合同大会案内サマリー・各種登録日程

会期：2003 年 5 月 26 日(月) - 29 日(木)  
(5 月 26 日 特別公開セッション「地学教育の展望」)  
会場：幕張メッセ 国際会議場

各種受付開始日・締切日：

	受付開始日	受付締切日
予稿集原稿投稿	2003/1/10 (金)	早期〆切： 2003/2/14 (金) 24:00
		最終〆切： 2003/2/21 (金) 17:00
大会参加登録事前申込		全日程参加： 2003/3/20 (木) 17:00
		一日のみ参加： 2003/5/2 (金) 17:00
宿泊予約	今回はありません。ご注意ください。	

お申し込み後の日程：

請求書発送	2003/3 末迄に完了	事前申込者のみ
支払締切日	2003/5/2(金) 厳守	郵便振込
プログラム ・予稿集 C DROM 発送 ・名札 **	2002/5/19(月) 迄に完了	事前申込者のみ

\*\* 名札は 5/2 までに振込済の方へ発送。以外は当日渡しです。

大会ホームページ：

2003 年合同大会に関する情報および各種登録ページが置かれています。

\*\*\*\*\*

合同大会ホームページ

<http://www.epsu.jp/jmoo2003/>

\*\*\*\*\*

詳しくは上記のホームページを是非ご覧下さい。変更内容の情報は随時更新します。(変更内容のチェックもお忘れなく。)

お問い合わせ先：  
(お問い合わせ先一覧は大会ホームページに掲載されています)

大会全般：  
(特別公開セッション、展示、予稿集バックナンバー請求等)  
合同大会運営機構 事務局  
〒133-0033 東京都文京区本郷 7-3-1  
東京大学理学部新 1 号館 719 室  
Email: office@epsu.jp  
Fax: 03-5800-6839

各種登録システムサポート：  
(電子投稿に関する質問。どうしても電子投稿の手段が確保できない場合も)

Web システム登録センター  
〒530-0001 大阪市北区梅田 2-4-9  
サンケイビル本館7階 株式会社ジェイコム内  
E-mail: reg@epsu.jp  
Fax: 06-6456-4105  
月～金 9:30～18:00(祝日を除く)

§ 1.1 各種の登録  
以下の登録は全て大会ホームページから行って下さい。  
個人情報登録  
参加登録(事前申込)  
予稿集原稿投稿(講演申込)

参加される方は全員、が必須です。を行うためには、前もってが必要です(ただし、既に登録済の方は再度行う必要はありません)。事前申込は当日受付(当日登録)より料金がお安くなっていますので、お勧めいた

します。

講演申込をされる方は、に加えて を行って下さい。共著の場合は、共著者についても が必要ですのでご注意下さい。当日発表される方も参加登録が必要です。

### § 1. 2 住所変更

プログラムおよび予稿集 CD-ROM は、参加登録申込者のみに5月19日頃迄に発送される予定です。

転勤・卒業等で住所変更が生じた方は、Web上の「個人情報登録」にて、住所変更手続きを行って下さい。

### § 1. 3 保育希望の方へ

合同大会では、保育をご希望されます方へ、会場に隣接する千葉市認定保育施設をご紹介します。 (利用時間に応じて実費負担) 詳細は大会 HP にてご確認ください。

## § 2 セッション案内

講演要旨(予稿集原稿)の投稿

1/10 ~ 2/21 の期間に合同大会ホームページ(§ 1 参照)上で行って下さい。

合同大会ホームページにセッション一覧リストが掲載しておりますのでご参照下さい。尚、それぞれのセッションについての問い合わせは、ホームページにあります各セッションの連絡先へお願いします。

プログラム編集作業

2月下旬より行われます。代表コンピーナーの方にご協力をお願いすることがありますので、連絡が取れますよう日程のご調整をお願いします。また、期間中ご不在の場合は代理の方をプログラム委員会(pcom-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp)へ、あらかじめお知らせ下さい。

特別公開セッション「地学教育の展望(短縮名)」の開催

2003年合同大会では、学校教育における地学教育の現状と展望を議論する場を設けて、教育現場の教師と地球惑星科学分野の研究者間の交流促進をはかりたいと考え、公開セッションを開催します。地学教育問題は教育現場でのみでなく、地球惑星科学の将来を考える上での共通の問題として考えていただき、多くの皆様のご参加をお待ちしております。又、中学・高校の先生方への参加の呼びかけに是非ご協力ください。

開催日時：2003/5/26(月) 9:00-15:00

参加費：無料

お申込・お問い合わせ：運営機構事務局

2003年大会開催セッション一覧

特別公開セッション：

地学教育の昨日・今日・明日

- 地球惑星科学は理科・地学離れを救えるか? -

(短縮名：地学教育の展望)

- 大記号・分類名 - - セッション名 - - 主催学会(複数共催) -

U ユニオン

・計算が開く地球科学の明日

V 火山学

・活動的火山 (火山学会・地震学会・測地学会・地質学会)

・マグマシステムと噴火 (火山学会・地質学会)

・火山爆発のダイナミクス：マグマ噴出の力学と物質科学からのアプローチ

K 岩石・鉱物学

・深成岩とマグマ - その発生から進入固結まで - (地質学会)

・鉱物の物理・化学 (鉱物学会)

S 地震学

・地震に伴う諸現象 (地震学会)

・地震発生の物理 (地震学会)

・地震活動 (地震学会)

・強震動・地震災害 (地震学会)

・地震の理論・解析法 (地震学会)

・地震計測・処理システム (地震学会)

・地震予知 (地震学会)

・地震一般 (地震学会)

・地盤構造・地盤震動 (地震学会)

・震源過程・発震機構 (地震学会)

・地殻構造 (地震学会)

・海溝型地震に対する強震動予測

・陸域震源断層の深部すべり過程のモデル化

・内陸地震発生做腿の学問的課題 活断層

評価と強震動予測を中心として

・海底に開く窓 —— 海底での地球科学的な観測手段

H 水文・陸水・地下水学

・水循環・水環境(水文水資源学会・地下水学会・地球化学会・水文科学会)

・同位体水文学 2003

・沿岸・湿地域の水・物質循環

・水温・水質から探る陸水の流動と循環

D 測地学

・重力・ジオイド (測地学会)

・測地学一般(含、計測技術、地球潮汐) (測地学会)

・地殻変動 (地震学会・測地学会)

・GPS

Q 第四紀学

・第四紀 (第四紀学会)

・“沖積層”の層序区分に関する諸問題

C 地球化学

・固体地球化学・惑星化学 (地球化学会)

・地球環境変化と大気水圏の物質循環

L 地球環境・気候変動学

・古気候・古海洋 (地質学会)

・北太平洋高緯度域における最新の古海洋研究

- B 地球生命科学
  - ・生命－水－鉱物相互作用の場的実態
  - ・アーキアパーク計画：海底熱水系における地圏・生物圏相互作用
- E 地球電磁気学
  - ・太陽圏惑星間空間 (SGEPSS)
  - ・宇宙プラズマ理論・シミュレーション (SGEPSS)
  - ・電気伝導度・地殻活動電磁気学 (SGEPSS)
  - ・地磁気・古地磁気 (SGEPSS)
  - ・磁気圏 - 電離圏結合 (SGEPSS)
  - ・宇宙天気 (SGEPSS)
  - ・電離圏・熱圏 (SGEPSS)
  - ・大気圏・熱圏下部 (SGEPSS)
  - ・磁気圏構造とダイナミクス (SGEPSS)
  - ・地震・火山活動に関連する電磁気現象
- I 地球内部科学
  - ・地球構成物質のレオロジーと物質移動
  - ・地球深部ダイナミクス：プレート・マントル・核の相互作用
- T 地球惑星テクトニクス・ダイナミクス
  - ・地下温度構造・熱過程（地震学会）
  - ・テクトニクス（地震学会・地質学会）
- G 地質学
  - ・地域地質と構造発達史（地質学会）
  - ・堆積物・堆積岩から読みとる地球表層環境情報（地質学会）
  - ・長期火成活動と火山発達史（火山学会・地質学会）
  - ・放射性廃棄物の地層処分 - 地層処分問題に
  - ・変形岩・変成岩とテクトニクス（地質学会）
  - ・古第三紀から中期中新世にかけての西南日本テクトニクス
- Y 防災・応用地球科学
  - ・地質ハザード・地質環境（地質学会）
- P 惑星科学
  - ・惑星科学（惑星科学会）
  - ・火星環境とその変遷の解明
  - ・宇宙惑星における固体物質の形成と進化
  - ・宇宙すばる望遠鏡による太陽系・惑星科学の成果
  - ・地殻変動地域の衝突関連イベント
  - ・アルマは惑星科学にどのようなブレークスルーをもたらすか
- Z その他
  - ・地球温暖化防止のための CO2 固定とカーボンサイクル
- J ジョイント
  - ・宇宙・惑星観測技術 (SGEPSS)
  - ・地球年代学・年代層序学 (地質学会)
  - ・活断層と古地震（地震学会・地質学会・第四紀学会）
  - ・地球流体力学 地球惑星科学における「不安定とパターン形成」へのアプローチ
  - ・オフィオライトと海洋地殻
  - ・岩石・鉱物・資源（岩石鉱物鉱床学会・鉱物学会・資源地質学会・地質学会）

- ・情報地球惑星科学
- ・惑星地球システムの安定性と不安定性
- ・惑星圏のリモートセンシング
- ・地学教育
- ・巨大地震発生帯の科学
- ・原生代後期の氷河時代問題：作業仮説、地質学的証拠、生物進化との関連性
- ・断層帯のレオロジーと地震の発生過程
- ・海洋底地球科学
- ・キッチン地球科学 - アナログ実験の未来 -
- ・山地流域の水文地質環境と物質循環
- ・映像でみる地球惑星科学
- ・ツナミアイトとサイスマイト
- ・アジア内陸起源の風送ダストの発生・輸送過程と影響

### § 3 個人情報登録

合同大会では、個人情報登録によって、ID 番号を取得していただいております。ID 番号は各種登録、照会に必要です。登録は無料ですので、「合同大会ホームページ」( § 1 参照)より行って下さい。

#### 個人情報登録と個人情報 ID 番号

\* まだ個人情報登録されていない方(共著者を含む):

まずは「合同大会ホームページ」の『個人情報登録』にてご登録を行って、「個人情報 ID 番号」を取得して下さい。

\* 既に個人情報登録をされて ID 番号を取得している方:

ID 番号は今年度も有効ですので再登録は必要ありません。

\* 所属、身分、Email アドレス等登録内容が変わった方:

『個人情報登録』において個人情報変更を必ず行って下さい。情報が古いままですと重要な大会情報、郵便物がお届けできなくなります。

\* ご自分の ID 番号やパスワードを忘れた方: 「『個人情報登録』の「各問い合わせ」にアクセスして問い合わせできます。

登録された個人情報は、個人情報 ID 番号によって参照され、参加登録、予稿集原稿投稿に利用されます。この際、講演者だけでなく共著者も個人情報 ID 番号の登録が必要です。共著者の個人情報 ID 番号が登録されていない場合は、予稿集に共著者名が載らないこととなりますのでご注意ください。共著者がすでに個人情報登録を済ませている場合は、ID 番号を「合同大会ホームページ」にて検索できます。

#### 個人情報登録のために必要な情報:

- ・氏名(漢字, カタカナ, 英語) 姓と名別々に
- ・所属学会(複数選択式)
- ・所属機関名(漢字, カタカナ, 英語)
- ・所属機関名略称(漢字, 英語)(表示用)

- ・所属機関住所 (漢字, 英語)
- ・身分 (学生, 一般 選択式)
- ・TEL, FAX, E-mail

これらのデータは, 次年度以降の合同大会への各種登録の基礎データとして保存される予定です.

§ 4 参加登録, 予稿集原稿投稿 (料金)

お申し込みいただいた全ての費用のお支払い方法は「郵便振り込み」です (当日登録は会場にて現金). 参加費, 予稿集原稿投稿費が一括請求されます. Webにてお申込み後, 郵便振り込み用紙が3/末頃までに郵送されます. 振込み期限 5/2 をお守りください.

校費扱いにつきましては運営機構事務局へお問い合わせ下さい.

§ 4.1 参加費用

		受付開始日	受付締切日	料金	方法
事前申込	一般	2003/1/10 (金)	2003/3/20 (木)	10,000 円	Web 申込みのみ
	学生			7,000 円	
	一日券		2003/5/2 (金)	5,000 円	
当日	一般	-	-	12,000 円	大会当日直接会場受付にお越し下さい
	一日券	-	-	6,000 円	
学部生と 70 歳 (大会当日現在) 以上の方 (発表をしない場合)		-	-	無料	

§ 4.2 予稿集原稿投稿 (発表申込) 費用

右段上の表参照.

§ 4.3 宿泊について

2003 年大会では, 運営機構での宿泊予約の受付はありません. 幕張メッセで開催することで, 「(財)ちば国際コンベンションビューロー」の支援を受け, 割引対象となる宿泊施設がございます. 1 月上旬 WEB 公開予定の宿泊施設紹介ページをご参照ください.

	受付開始日	受付締切日	料金	方法
予稿集原稿投稿	2003/1/10 (金)	2003/2/14 (金)	1,500 円	Web 申込みのみ
		2003/2/21 (金)	3,000 円	
図掲載 (希望者のみ)	(基本的に論文と同時受付)		1,000 円	郵送
			500 円	Web 申込

§ 4.4 取消・変更について

振込後, 参加を取り消されても予稿集原稿登録料の返金はできませんので, 予めご了承下さい.

3/21 事前全日参加登録締切時現在で, 請求金額, CD-ROM 予稿集, プログラムの準備数を決定いたします. CD-ROM 予稿集・プログラム 3/21 現在全日券登録者全員に送付  
名札 上記のうち 5/2 までに請求金額全額入金確認者のみ送付  
未入金者は当日渡し

項目	受付期間	変更	取消	連絡方法	対応・備考
予稿集原稿投稿	2003/2/21 (金) 17:00 迄 (投稿最終締切日)			Web	-
	2003/2/22 (土)以降	×	×	-	投稿料は課金 (CD-ROM 作成開始のため)
大会参加登録 *1	2003/5/2 (金) 17:00 迄 (振込締切日・事前一日券登録締切日)	*2		Email 又は FAX *4	*2 「事前全日」 「事前一日」 「事前一日」 「事前全日」 双方変更可能 差額は当日精算
	2003/5/3(土)以降	*3	×		*3 「事前一日」 「事前全日」 のみ変更可能 差額は当日精算

\*4 変更取消連絡先 : FAX:03-5800-6839 Email: reg@epsu.jp

ご連絡時は個人情報ID 番号もお知らせ下さい。

§ 5 運営機構からのお知らせ

§ 5.1 運営機構ホームページのご案内  
運営機構のホームページを立ち上げております。運営機構のことだけでなく、2003年合同大会のお知らせ、準備状況、各学会へのリンク、地球惑星科学関連の専攻、学科、研究所へのリンク、連絡会のお知らせ、等を掲載していきます。

URL <http://www.epsu.jp/>

§ 5.2 参加費についてお願い

本年度から幕張メッセに会場を移すため、合同大会の会計は昨年度までにくらべ 厳しい状況におかれることが予想されます。健全な財政を維持し、皆様の参加費を来年度以降もなるべく低い水準に維持するため、以下の事をお願いしたいと思います。

(1) 参加費の請求書が送付されましたら、期限までに必ずお支払いください。名札が郵送されますので必ずそれを付けて会場にお入りください。

(2) 当日お支払いの方、一日参加の方は、まず受付にお立ち寄りになり、精算を済ませた上で名札を受け取って参加してください。

(3) 名札を付けずに会場に入られた方には理由をお伺いする場合があります。

(4) 事前全日登録をされてキャンセルの手続きを5/2までに行わず、参加費を払い込まずに運営機構に連絡なく参加されなかった方にも今年からは参加費を請求させていただきます。請求は大会後なされます。この場合、事務手数料3000円が加算されて請求がされますので、どうぞご注意ください。

参加費をお支払いになって大会に参加されている方々の権利を守るため、本年度から上記の措置をとらせていただきます。参加される皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

§ 5.3 合同大会当日の受付時間について  
合同大会期間中の受け付け時間 場所は以下の通りに開設する予定です。

当日総合受付

5/26(月)~29(木)AM 8:30 ~ PM 3:00(予定)

1F 受付カウンター

(参加登録・予稿集原稿CD-ROM販売・各種案内)

§ 5.4 団体展示・書籍出版展示

合同大会では、2F 中央ロビー及びホワイトエにて、研究団体・企業・出版社などによる研究紹介・書籍・機器などの展示ブースを設けております。様々な形で自由にご利用頂き、有効な情報交換の場としてご利用ください。ご利用希望の方は、事務局へご連絡下さい。詳細(申し込み要綱)をご案内いたします。尚、お申し込みは2月末日(最終締切)まで、スペースに限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。詳細は、後日ホームページにてご案内します。

§ 5.5 合同大会会場における会合申込み  
会合・集会を行う団体の部屋使用希望の申し込みは、下記の通りで受付いたします。実際の部屋割りは、プログラム日程決定後3/1以降、先着順にいたします。会場内の部屋数に限りがございますので、満室になった場合は、できる限り会場周辺の会期施設をご紹介させていただきますが、やむを得ず、ご希望に添えない場合があります。ご了承ください。

尚、部屋使用料金、お弁当等の詳細はHP「会合のお申込」をご覧ください。

お申し込み受付

2003/2/17(月) - 5/2(金)

お申し込み先

運営機構総務局 2003年会合係(E-mail: [meet@epsu.jp](mailto:meet@epsu.jp))

お申し込み内容

- 1) 会合名称
- 2) 申込み責任者とそのメールアドレス
- 3) 使用人数
- 4) 希望する時間(開始・終了時刻)
- 5) 食事の希望有無(有の場合は弁当数)

§ 5.6 2003年合同大会運営機構組織構成と連絡先

大会委員長 清水 洋 > 広島大・理

<< 運営機構 >> [jm-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:jm-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp)

代表 浜野洋三 東大・理・地惑

財務局 > [fc-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:fc-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp)

中村正人 2003年担当責任者 宇宙研

木村学 東大・理・地惑

志茂久男 国土地理院

佐倉保夫 千葉大・理・地球

綱川秀夫 東工大・理工・地惑

渡辺誠一郎 名大・理・地惑

企画局 [plan-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:plan-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp)

大村善治 2003年担当責任者 京大・宙空

電波研

木村学 東大・理・地惑

安藤雅孝 名大・理・地震観測センター

浦辺徹郎 東大・理・地惑

大谷栄治 東北大・理・地球物質

末広潔 海洋科学技術センター

深尾良夫 東大・地震研

丸山茂徳 東工大・理工・地惑

安原正也 地質調査所

ロバート・ゲラー 東大・理・地惑

情報局 [it-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp](mailto:it-ml@jmoo.eps.s.u-tokyo.ac.jp)

竹内 希 2003年担当責任者 東大・地震研

坪井誠二 海洋科学技術センター

宮本英昭 東大・工・地球システム

田近英一 東大・理・地惑

大村善治 京大・宙空電波研

倉本 圭 北大・理・地惑

林 祥介 北大・理・地惑  
 古屋正人 東大・地震研  
 塚本尚義 東工大・地惑  
 総務局 ga-ml@jmoo.eps.s.u-  
 tokyo.ac.jp  
 岩上直幹 2003年担当責任者 東大・理・  
 地惑  
 石橋純一郎 九大・理・地惑  
 沖野郷子 東大・海洋研  
 中村美千彦 東北大・理  
 浜野洋三 東大・理・地惑  
 松浦充宏 東大・理・地惑  
 湯元清文 九大・理・地惑  
 渡部重十 北大・理・地惑  
 プログラム局 pro-ml@jmoo.eps.s.u-  
 tokyo.ac.jp  
 原 辰彦 2003年担当責任者 建築研

吉田尚弘 東工大・総合理工  
 岩森 光 東大・理・地惑  
 阿部 豊 東大・理・地惑  
 小野高幸 東北大・理  
 安藤寿男 茨城大  
 多田隆治 東大・理・地惑  
 中嶋 悟 東工大・理工・理学研究流動機構  
 村江達士 九大・理・地惑  
 近藤忠 東北大・理  
 渡辺誠一郎 名大・理・地惑  
 << 共催学会選出プログラム委員 >>  
 日本測地学会  
 古屋正人 東大・地震研 , 松本晃治 > 国  
 立天文台・水沢  
 資源地質学会  
 加藤泰浩 東大 , 今井亮 > 東大・理

## 日本第四紀学会論文賞受賞候補者の推薦について

本賞は会誌「第四紀研究」に優れた論文を発表した会員の表彰を通じて、第四紀学の進歩と本学会の発展を図ることを目的としています。本賞は規定により、毎年、会員の皆様から自薦・他薦によって候補者を御推薦いただき、論文賞受賞候補者選考委員会において候補者の選考と受賞者の決定を行うことになっております。受賞者は6月末日までに決定され、8・9月に大阪市立大学で開催される2003年度総会で表彰される予定です。

つきましては、下記を御参照の上、日本第四紀学会論文賞の受賞候補者を御推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。なお、第四紀学会論文賞規定と同賞選考に関する内規は、第四紀通信 Vol.1(4)p.1-2, Vol.4(5)p.10, Vol.6(2)p.15に掲載されていますので、御参照ください。

### 記

1. 選考対象：「第四紀研究」第40巻(2001年)および第41巻(2002年)に掲載された、会員を筆頭者とする原著論文、短報、総説および特集号の論文
2. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名(自薦を含む)、受賞候補者名、受賞候補論文名(巻号頁を明記)および推薦理由を記入する。
3. 推薦書類の提出先：

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9 学会センター C21 内  
 日本第四紀学会 論文賞受賞候補者選考委員会

4. 推薦書類の受理期限  
 2003年3月31日(必着)

## 日本第四紀学会 2003年大会のお知らせ(再録)

一般研究発表・総会・シンポジウム： 8月29日～31日 会場：大阪市立自然史博物館  
 普及講演会： 8月31日 会場：大阪市立自然史博物館  
 野外見学会： 9月1日 見学内容：大阪南部の大阪層群の地層および大阪平野の沖積層における堆積物と遺構

### 2003年度大阪大会ホームページのご案内

本年8月末に行われる大阪大会のホームページを作成しました。現在はまだ概要版ですが、今後、最新の情報を逐次掲載しますのでご覧ください。本ホームページは、学会ホームページ経由あるいは、下記のURLで直接ご覧になれます。大阪大会に関わる問い合わせなどは、大会実行委員会の各係にお問い合わせください。

URL: <http://www.sci.osaka-cu.ac.jp/geos/geo3/qr2003/index.htm>

## 日本第四紀学会研究委員会 合同企画

### シンポジウム「南関東のローム層を見直す」を開催して

坂上寛一（東京農工大学・農）

報告のタイミングとしては、いささか旧聞に属するが、2002年9月7日に明治大学駿河台キャンパスのリバティータワーで、標記のシンポジウムが開催され、下記のような幅広い内容の紹介と興味深い議論がなされたことを報告する。主催は日本学術会議第四紀研究連絡委員会、テフラ・火山研究委員会、古土壤研究委員会、ネオテクトニクス研究委員会であり、世話人は、町田 洋・坂上寛一・小田静夫・山崎晴雄・鈴木毅彦・杉原重夫の各氏である。

なお、シンポジウムに先立って、9月5・6日には観光バスをチャーターして、神奈川県下の巡検があり、いろいろな専門分野の研究者やシンポジウム発表者の多くが、同じ関東ローム層断面を見ていることになる。

冒頭の町田 洋氏の趣旨説明にあったように、南関東は日本の第四紀研究・テフロクロノロジーの古典的フィールドでありながら、やや停滞しているように見える。今一度、その形成過程、古環境変遷と年代などを見直すことが必要である。そのためにも、最終氷期以降の地層、地形、土壌、考古遺物を総合的に見直し、次に何をすべきかを考えるための合同シンポジウムなのである。

まずは、年代観である。該当する立川・武蔵野ローム層相当期は、酸素同位体ステージ5a以降であり、顕著な気候変化がみられたはずである。そしてその環境変化を年代とともに世界の変化ともすり合わせる必要がある。ただし、そのためには、もう少し時間が必要なようである。該当期の個々のテフラ年代の見直しは、このところ急なものがあるが、まだ統一した年代観が整理して提示されてはいないこともあり、いろいろな議論の根底をなす年代観が完全には共有できていないと思われた。

約150名の参加を得て、活発な論議がなされた。南関東ローム層の標準層序はこれまでの武蔵野ではなく、より緻密な論議に込められる相模野に求めるべきことが共通認識となったように、多くの貴重な論点が整理できた。これを契機に、南関東ローム層の総合的な検討を重ねていきたい。今回のシンポジウムの記録も何らかの形で残したいと考えているが、年代観を始め、いくつかの調整が必要とも考えている。



明治大学駿河台キャンパスで開かれたシンポジウムの様子。

「南関東のローム層を見直す」 テフラ，古土壌，考古学遺物，地殻変動の諸観点から

#### 午前：基調報告

- 町田 洋：シンポジウム趣旨説明
- 小田静夫：南関東の石器包含層
- 坂上寛一：南関東における古土壌研究の課題
- 鈴木毅彦：関東に分布するローム層の起源について
- 山崎晴雄：南関東・東海における地震考古学データの再検討

#### 午後：研究報告

- 諏訪間順：南関東における立川ローム層基底部の石器群
- 上本進二：南関東のテフラ層と遺跡層準
- 宇津川徹：南関東における土壌層序と一次鉱物組成
- 品川俊介：ローム層の初磁化率測定 関東・新潟を例に
- 細野 衛・佐瀬 隆：植物珪酸体分析からみた立川・武蔵野各ローム層の古土壌学的话题 武蔵野台地 成増露頭のテフラ層累 積断面からの発信
- 井上 弦：テフラ-土壌シークエンスにおける土壌生成 南九州都城盆地の事例
- 杉山真二：南関東における旧石器時代の植生と環境 植物珪酸体分析による検討 - 叶内敦子：伊豆半島南部における東京軽石層降下以降の植生変遷

#### 総合討論



## 日本第四紀学会研究委員会合同企画

## 「南関東のローム層を見直す テフラ、古土壤、考古学遺物、地殻変動の諸観点から (野外巡検編)」参加報告

江口誠一(千葉県立中央博物館)

2002年9月5日、6日の両日、「南関東のローム層を見直す テフラ、古土壤、考古学遺物、地殻変動の諸観点から」というタイトルで野外巡検が行われた。これは日本第四紀学会の3委員会、テフラ・火山研究委員会、古土壤研究委員会、ネオテクトニクス研究委員会と、日本学術会議第四紀研究連絡委員会の主催事業である。

案内者は、町田洋氏、矢島國雄氏、小野昭氏、高尾好之氏、山崎晴雄氏、渡邊眞紀子氏、前嶋秀張氏、坂上寛一氏、鈴木毅彦氏であった。おもな観察場所は、相模原台地、大磯丘陵、愛鷹山麓、富士山麓、松田山であった。

「中前期旧石器捏造事件」により、日本における旧石器研究は大幅に後退することとなった。このような中、原点に戻る意味で第四紀研究の古典的フィールドである、南関東に目を向ける。また、日本で有数の連続的な風成層である、ローム層の形成過程や古環境、年代を見直し、近年の研究動向にあらためて提言する必要がある。関東ローム層研究の、初期段階より関わられてきた案内者の一人、町田氏より始めの言葉があった。

最初のStop1.1は相模原市下溝(大正坂)へ行き、完新世の黒ボク土から東京軽石層までの立川 武蔵野ローム層を観察した。AT層準を確認した後、下位の指標テフラを探索する中で、ローム層の構成物として粗粒のスコリアが多く見受けられた。従来、盛んに研究されてきた武蔵野台地と比べ、相模原台地は富士・箱根や伊豆諸島などの給源火山が近く、テフラが多く検出される。ここでのローム層研究は層序学のみならず、環境変動についても新たな知見が期待されることが話題となった。その層序と文化層の関係や、埋没古土壤の成因について

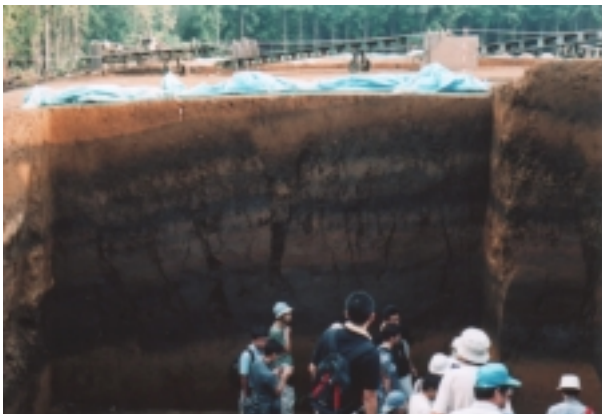
は、矢島氏を中心に議論された。また、ローム層下位の中津層境界からは湧水が多量に出ており、後に行く昼食場の鱒料理店も、以前その水を利用していけすを作ったと思われる。

Stop1.2は相模原市田名向原遺跡で、後期旧石器時代の定住跡の可能性がある場所で露頭観察した。相模川の本流が望める遺跡調査区からは、放射性炭素年代が較正暦年1.9~2.3万年前である富士相模川泥流堆積物と、その上位の住居状遺構の層準を確認した。調査時に発掘された炉跡や柱穴、外周の円礫群などについて、小野氏から説明を受けた後、段丘形成時や遺構面堆積時の相模川の水位について議論された。富士相模川泥流については、次のStop1.3相模原市滝で好露頭を観察し、その成因などについて話された。

昼食後のStop1.4は平塚市山下で、大磯丘陵におけるステージ5・4の堆積物を観察した。ここでは、Hk-APとHk-TPという2枚の箱根起源軽石層が見られたが、前者を挟む上下のローム層の堆積環境が異なることが説明された。下位のローム層はステージ5で温暖、上位はステージ4で寒冷な時期に堆積したものであるという。

初日最後のStop1.5は、沼津市愛鷹運動公園内二ツ洞遺跡において愛鷹ローム層の層相観察を行った。深さ約4mの整形された深堀露頭で、沼津市教育委員会文化財センターの高尾氏より層序の説明を受けた。ここでは特に、黒色層の生成についてと石器群の組成について意見が交わされた。

2日目は悪天候の中、Stop2.1の富士宮市下高原における古富士泥流堆積物の観察から始まった。場所は、第二東名高速道路の富士宮第一トンネル工事現場で、様々な施工のため



二ツ洞遺跡の古土壤



古富士泥流をもとめてトンネルへ

の重機が作動している中、上りと下り両方のトンネルを通り往復した。社会的に話題となっている高速道路の工事現場で、通常見学できないであろう所まで案内され、興味深いオプションであった。

雨が一層強く降るころ、Stop2.2の静岡県長泉町梅ノ木沢遺跡に到着し、愛鷹ローム層の見学などを行った。高さ約5mの整形された露頭で、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の前嶋氏から層序の説明を受けた。層序区分は前日のStop1.5と対応するが、黒色層の色が淡いことが論点となった。その流れで“黒くない”黒色層を詳しく調査されている渡邊氏より、土壌反応試験のひとつ活性アルミニウムテストが実演された。堆積年代の古いローム層には反応しない場合が多いが、今回は微妙な結果のようであった。

昼食後のStop2.3は省略され、Stop2.4静岡県小山町富士スピードウェイ内の富士山東麓完新世テフラ露頭を観察した。宝永テフラと下部の木材化石、新期富士テフラ層群および富士黒土層が見られた。

最終のStop2.5は、神奈川県松田庶子の松田山南縁断層とテフラについてである。山崎氏より、松田山と足柄平野に分布する松田山前縁丘陵と仮称する地形の形成史について解説があり、その影響で変位したATを挟むテフラ層を観察した。

当巡検は、大会直後の平日でありながら約30名の参加者があった。これは古くからの研究対象地を訪れ、各人様々なテーマを抱きながら再考できると期待されるからであろう。第四紀学会も当初、このような諸分野の立場から総合的捉え、互いに議論していく場が多かったと聞いている。そのころから活躍されていた案内者の町田氏が、各観察地点ほぼ全てにコメントされている中、当時Hk-TPを追って調査された時の話も盛り込まれていたのが印象的であった。しかし残念ながら、それら露頭の多くは消滅してしまい、教科書に載るような有益な場所も昔話となってしまったようである。最後になったが、関係者の方々には大変お世話になりました。お礼申し上げます。また、翌日行われた同タイトルのシンポジウム編の報告も期待したい。

## ICDP 琵琶湖・水月湖掘削ワークショップ開催報告

国際ワークショップ実行委員会

はじめに

ICDP (International Continental Scientific Drilling Program) 国際ワークショップ "Lake Biwa and Lake Suigetsu: Records of Global Paleoenvironments and Island Arc Tectonics" をICDP資金援助、日本第四紀学会、ALDPの後援で2002年11月21日から25日まで、主に京都大学を会場として実施した。

この計画は、日本列島に位置する琵琶湖と水月湖の湖底堆積物の高精度解析により、汎地球規模の古気候変動や島弧のテクトニクスや活構造の記録を明らかにすることを目標にしており、新たな掘削を実施することの科学的価値とその方法について議論した。

参加者は57名(日本、アメリカ合衆国、ドイツ、フランス、中華人民共和国、大韓民国)で、掘削試料解析に関わるプロポーザルや関連テーマの口頭発表21編、ポスター発表12編が報告された。

プログラムは大きく、発表と討論、懇親会、巡検、ビジネス会合であった。

発表と討論は22日と23日に実施し、内容は、イントロダクション、琵琶湖と三方五湖周辺のテクトニクス、年代層序学的研究、古環境と古気候、ICDPと湖沼掘削、総合討論である。

イントロダクションは、ICDP国内実施委員会によるICDP国内実施体制や現状に関する紹介からはじまった。ついで、本ワーク

ショップ実行委員会が、琵琶湖・水月湖堆積物研究に関して、テクトニクスの背景と過去の掘削コアの情報と成果と課題を報告した。その後、ICDP事務局のGFZからICDPの全体像と湖沼掘削が紹介され、さらにヨーロッパにおける湖沼堆積物の高精度研究成果が紹介された。



ICDP 国際ワークショップ巡検集合写真(2002年11月24日、於:白鬚神社)



ICDP 国際ワークショップ参加者集合写真 (2002年11月23日、於：京都大学6号館)

テクトニクスでは、琵琶湖・三方五湖周辺のテクトニクスに関する現時点での情報のまとめと4つの研究提案、現在の琵琶湖周辺の地震活動や地殻変動観測データのまとめ、湖底堆積物の粒度やタービダイトなどから推定される気候変化やテクトニクスに関する情報、浅層ボーリングコアデータベースの構築とその利用と活断層活動評価への応用の4つの口頭発表があった。

年代層序学的研究は、高精度という場合の解像度を測る重要な情報であり、また対象とする現象の地域差を議論する上で欠かせない基本的情報である。これに関して、 $^{10}\text{Be}$ などの cosmogenic isotope 測定からもたらされる利点と琵琶湖堆積物の測定結果の紹介と研究提案、放射年代測定の最近の進歩に基づく火山灰を対象にした単一粒子の  $\text{U-Th/He}$  と  $^{40}\text{Ar}/^{39}\text{Ar}$  の測定に関する提案、琵琶湖堆積物における対比基準と年代観の位置づけのための火山灰層の重要性と今後のコア採取における研究提案が発表された。その後、古地磁気学・環境磁気学的手法によるまとめと従来の研究から導き出される課題と今後の研究計画が提案された。それに対応して、最近の古地磁気学・環境磁気学的手法の進歩とその利点について紹介され、それらが将来のコアについても有効であることが示された。それらの実例として、オホーツク海のコアから得られる高精度古地磁気情報が紹介された。

この日夕方の懇親会は、1960年代から琵琶湖掘削や日本の湖沼堆積物研究に尽力された堀江正治京大名誉教授にも出席いただき、琵琶湖・水月湖掘削に関する情報交換等が行われた。

11月23日の午前は、古環境・古気候に関する発表を行った。花粉分析による氷期・間氷期に関する世界的なレビューと琵琶湖堆積物での研究提案、水月湖コアの氷期～後氷期にかけての高年代精度分析と現在の表層花粉データと気象データから導き出した関係の考察と研究提案、フランスと南極のコアから得られた気候

サイクルを用いて両半球間の高精度比較が発表された。ついで、珪藻分析から明らかにできる過去14万年間の環境変動と古気候学的考察、湖沼堆積物の有機地球化学および無機地球化学からの研究のレビューと今後の琵琶湖・水月湖コア解析方針が発表された。

午後は、湖沼堆積物研究で重要な乱れのない連続的なコア採取法について、特に、GLAD 800システムについて詳細な報告があり、今後のコア採取についての貴重な情報となった。ポスターセッションコアタイムをはさんで、ALDPを代表して安田喜憲教授が、年縞堆積物から得られる環境変遷と人間活動(文明)との関連の高精度復元と、ELDPとALDPとのユーラシア全域にわたる研究プロジェクトを紹介した。

この後、掘削地点・掘削方法・研究予算を含む研究プログラムについて議論し、最後に、今後の関連する国際会議等の紹介と記念撮影(写真1)を行った。

なお、2日間にわたって展示されたポスターセッションは、海洋コア情報、韓国、中国の湖沼情報、古地磁気学研究、堆積学的研究、火山学的研究、データベースを利用した研究、以前の琵琶湖掘削の基礎的な情報など多岐にわたり、十分な時間を使い議論できた。

24日は、琵琶湖・三方五湖への巡検を実施した。ルートは京都大学 比叡山ドライブウェイ - 堅田丘陵 - 琵琶湖博物館 - 堅田丘陵 - 白髭神社(写真2) - 三方五湖 - 安曇川の谷(花折断層の谷) - 京都大学で、幸い観光シーズンの渋滞にも関わらず、予定通りの行程で実施された。

25日は、実行委員会メンバーおよび招待講演者をまじえて議論し、予定される国際会議等も含めた今後の実行計画を相談した。

なお、アブストラクトをご希望の方は、実行委員会までご連絡ください。連絡先と詳細プログラムはホームページ (<http://www.vgs.kyoto-u.ac.jp/icdpbiwa/>) を参照ください。

## 野義夫先生のご逝去を悼む

本会の地質分野評議員(65,69-71,75-81年)を務められました金沢大学名誉教授 野義夫先生は、2002年11月19日に逝去されました。享年78才でした。

先生は1924年石川県で生まれ、1945年に東京帝国大学理学部地質学科卒業、1946年金沢高等師範学校講師、1950年金沢大学理学部地学教室講師、翌年助教授、1964年に教授、1989年退官されるまでの39年間金沢大学に勤務されました。この間、大学の要職を務めながら学生指導と研究活動に力を注ぎ、教室や地質学界の発展に大きく貢献されました。

先生は、新生代層の層序学的研究を基礎に幅広い研究に取り組み、始めは北陸地区の第三紀層研究、その後は海岸段丘や海岸平野の第四紀研究、並行して日本海海域の地学的研究に力を注ぎ、日本海の成因を研究されました。一方、「能登半島地質図」「石川県地質図」「石川県地盤図」、「土地分類基本調査の12図幅」、「新版・石川県地質図」「石川県地質誌」などの編集を数多く手がけられ、これら地域地質と第四紀地質データを基礎に、地下水調査や地盤沈下調査、温泉調査、平野の地盤構造、地すべり調査、環境保全や自然保護活動などにも積極的に取り組まれました。また、地元の石川県地学教育連絡会、北陸経済調査会、北陸地盤工学研究会、石川県自然史協会などに参加され地元で大きな役割を果たされました。これら先生の足跡は、専門家としての多様な活動、地元をこよなく愛する姿勢、幅広い分野の人々との交流などを通しての、地域地質をベースにした足が地に着いた研究活動であったことを物語っています。

謹んで、野先生のご冥福をお祈りいたします。

(赤羽 貞幸)

第2回高精度<sup>14</sup>C年代測定研究委員会(公開シンポジウム)開催のお知らせ

第四紀学会の研究委員会の一つとして「高精度<sup>14</sup>C年代測定研究委員会」が立ち上げられており、昨年度の2002年3月3日には、日本大学にて、第1回の公開シンポジウムを開催いたしました。

さて、本年度も、第2回目の公開シンポジウムを右記の要領で開催いたします。今回は、海洋の炭素リザーバーが<sup>14</sup>C年代に及ぼす効果に焦点を当てます。海洋表層水に溶存する炭素の<sup>14</sup>C濃度は、約1500年をかけて循環した海洋深層水の湧昇水と混合することで、大気中CO<sub>2</sub>の<sup>14</sup>C濃度より低く、それが海産物試料の<sup>14</sup>C年代を実際よりも古く(平均的に400年)見せる原因になっていることが解っています。海洋の堆積物試料の<sup>14</sup>C年代を高精度で測定し、それを暦年代へ較正するには、試料を採取した地点における海洋リザーバー効果がよくわかっていることが不可欠です。また、人骨などの<sup>14</sup>C年代測定においては、ヒトは海産物と陸上植物・動物を合わせて食しますから、陸上食糧と海産食糧の摂取の割合に応じて、海洋リザーバー効果の影響が異なります。それを考慮して、測定された<sup>14</sup>C年代から暦年代へと較正する必要があります。このような観点から、関連試料の<sup>14</sup>C年代を実際に取り扱っておられる諸先生に話題提供をお願いし、それを基に総合議論を進める予定です。海洋堆積物試料を取り扱っておられる研究者、考古学において人骨・獣骨あるいは海産性遺物を取り扱っておられる研究者は、第四紀学会会員、非会員に関わらず、ご出席いただきますようにご案内いたします。

日時：2003年2月15日(土)10:30～17:00

場所：東京大学法文2号館2階2番大教室(東京都文京区本郷 安田講堂前のビル)

オーガナイザー：中村俊夫、辻 誠一郎  
共催：日本第四紀学会高精度<sup>14</sup>C年代測定研究委員会  
日本学術会議第四紀研究連絡委員会

参加費：無料

プログラム：

1. 「趣旨説明」 中村俊夫(名古屋大学年代測定総合研究センター)
2. 「海底堆積物の<sup>14</sup>C年代と海洋リザーバー効果」 村山雅史(高知大学海洋コア研究センター)
3. 「考古学資料の海洋リザーバー年代は何を語るか？」 米田 穰(独立行政法人国立環境研究所化学環境研究領域)
4. 「佐賀県大友遺跡出土人骨のAMS<sup>14</sup>C年代と海洋リザーバー効果」 三原正三(九州大学大学院比較社会文化学府)・宮本一夫(九州大学・文学部)
5. 「総合討論」

問い合わせ先：中村俊夫(名古屋大学, nakamura@nendai.nagoya-u.ac.jp, Fax:052-789-3092)・辻 誠一郎(国立歴史民俗博物館, hisbot@rekihaku.ac.jp, Fax:043-486-4299)

## Second IAG Yangtze Fluvial Conference

August 20-28, 2003, Shanghai, China

First Circular and Call for Abstracts

### Organizer

East China Normal University;  
China University of Geosciences;

### Co-organizer

International Association of Geomorphologists  
Working Group on Large Rivers  
Changjiang Water Conservancy Commission,  
China  
Northwest Normal University, Chongqing, China

### Background

This follows the very successful Yangtze Fluvial Conference organized by the East China Normal University and the IAG Working Group on Large Rivers in October-November 1999 that resulted in the publication of two special issues of the journal *Geomorphology* in 2001 and 2002. The IAG Working Group on Large Rivers has also organized other meetings since its inception to maintain the research interest and exchange of information on large rivers.

The Yangtze, an exceptionally important river for China, plays a crucial role in landform evolution, transfer of water and sediment from the interior to the coast, and supply of nutrients to the ocean. Its fascinating form and behavior are intricately linked with the monsoon system of climate and large-scale regional tectonics. It is also an excellent example of the interaction between people and nature as reflected in basin land use, water utilization, and large-scale engineering structures on the river.

This conference provides a wonderful opportunity for the diffusion of knowledge regarding large rivers and for travelling along a part of the Yangtze. Another post-conference publication should be possible.

### Sponsors

China Natural National Science Foundation  
East China Normal University  
China Geological University

### Organizing committee

Chair::Hongfu YIN, Academician, China University of Geosciences  
Vice Chair:Fubo WEN, Academician, Changjiang Water Conservancy Commission, China  
Lizhong YU, Professor, East China Normal University, China  
Mingsheng KUANG, Professor, Southwest Normal University, China  
Secretariat: Zhongyuan CHEN, Professor, East China Normal University  
Vice Secretariat: Changan LI, Professor, China University of Geosciences

### Academic Committee

Chair: Changming LIU, Academician, Beijing Normal University, China  
Co-Chair: Avijit GUPTA, University of Leeds;

Chair, IAG Working Group on Large Rivers

Member:Adrian M. HARVEY, Professor, Department of Geography, University of Liverpool, UK  
Brian FINLAYSON, Associate Professor, The University of Melbourne, Australia

Changqing SONG, Director of Geographic Division of China Natural National Science Foundation

Gordon E. GRANT, Professor of U.S. Forest Service, USA

Houze XU, Academician, Institute of Geodesy and Geophysics, Chinese Academy of Sciences,

Jiejun LI, Academician, Lanzhou University, China

Jun XIA, Professor, Wuhan University, China

E.M., LATRUBESSE, Professor, Universidade Federal de Goias-IESA, Brazil

Masataka WANANABE, Professor of National Institute for Environmental Studies, Japan

Andrew J. MILLER, Professor, University of Maryland, Baltimore, USA

Richard A. MARSTON, Professor of School of Geology, Oklahoma State University

Colin R., THORNE, Professor, University of Nottingham, U.K.

Yin WANG, Academician, Nanjing University, China

Yoshiki SAITO, Dr. AIST, Geological Survey of Japan

### Conference themes

Fluvial geomorphology

River geology and evolution

Monsoon rivers

Sediment sources, delivery and sink

Water resources and management

River hydrology and engineering

Hazards and environment

Human activity and sustainability

### Language: English

### Location and time

August 20-28, 2003

Shanghai, Chongqing, Wuhan

### Field visit

A choice of two field trips is being planned.

1) Upper Yangtze plateau (alluvial fans, topography, tributary system, landuse; deforestation, etc.),

2) 2) 3-Gorges (landforms, river channel, nature of rock formation, elevated water level of the first stage, Dam-site, etc). Details will be specified in the 2nd circular by the end of this year or early of 2003.

### Schedule

08/20 Registration (East China Normal University, Shanghai)

08/21 Opening ceremony (Morning); presenta

国際会議の案内

tion (afternoon; fly to Chongqing in evening);  
08/22 Presentation at Southwest Normal University, China;  
08/23-26 Field trip (two-routes; details will be given in 2nd circular);  
08/27 Presentation (China Geological University, Wuhan, closing);  
08/28 Return to Shanghai (by morning flight);  
Departure;

Costs

US\$800, inclusive of lodging, food and transportation costs during the field trip

Accommodation

All participants will be housed individually in University Hotel (at three star level, except

special request)

Abstract

Abstracts should be emailed to the conference Secretariat by May 31, 2003, and addressed to Dr Zhongyuan Chen, Department of Geography, East China Normal University, Shanghai 200062, China  
Email: Z.Chen@sklec.ecnu.edu.cn  
<mailto:Z.Chen@sklec.ecnu.edu.cn;> Fax: 86-21-6223 2416 Tel. 86-21-6223 2706

Dr Avijit Gupta (School of Geography, University of Leeds, Leeds LS2 9JT, UK) can also be contacted for clarification regarding submission of abstracts and paper presentation. Email: avijit@foxhill.demon.co.uk

### Registration Form

(Please return this form as soon as possible by email to Z.Chen@sklec.ecnu.edu.cn or by fax to 86-21-6223 2416)

Second IAG Yangtze Fluvial Conference  
Shanghai, China

Surname \_\_\_\_\_ Other Names \_\_\_\_\_

Prefix (select one)      Professor/Dr/Mr/Mrs/Miss      Male [ ] Female [ ]

Address \_\_\_\_\_

Tel \_\_\_\_\_ Fax \_\_\_\_\_

Email \_\_\_\_\_

Provision title of paper (oral presentation) \_\_\_\_\_

Provisional title of paper (poster presentation) \_\_\_\_\_

Abstract enclosed      Yes [ ]      No [ ]

Signature \_\_\_\_\_ Date \_\_\_\_\_

### First International Conference on Palaeontology of South East Asia (ICPSEA) に関する情報

Dear colleagues

We're proud to present information about the first International Conference on Palaeontology of South East Asia (ICPSEA), 27 -30 October 2003, on the website now. Please check it out at <http://www.msu.ac.th/bpc/index.html> and make use of the convenience online registration form.

Best regards

Dr. Petra Lutat  
Organizing committee of ICPSEA  
Mahasarakham University Mahasarakham 44000 Thailand  
Phone: + 66-43-7542-455 Fax: + 66-43-7542-47

**First Announcement and Call for Papers - Puglia 2003 -  
International Conference on  
Quaternary coastal morphology and sea level changes**  
Project IGCP 437 - Final Conference

INQUA Commission Sea Level Changes and Coastal Evolution  
INQUA Commission Sea Level Changes - Subcommission 4-Mediterranean  
INQUA Commission Holocene

AIGeo – Italian Association of Physical Geography and Geomorphology  
SIGEA – Italian Society of Environmental Geology

Otranto / Taranto - Puglia (Italy)  
22-28 September 2003

The Universities of Bari and Lecce, Italy, invite coastal researchers on behalf of IGCP Project 437 "Coastal Environmental Change During Sea Level Highstands: A Global Synthesis with Implications for Management of Future Coastal Change", to the final Conference "Puglia 2003" to be held in Otranto (Lecce) from September 22 to September 28, 2003.

Puglia 2003 will be a multi-disciplinary international conference for scientists interested in the evolution of coastal geological systems in response to sea level changes during Late Quaternary.

Topics of this meeting will include:  
coastal geomorphology and sea-level changes  
eustasy, isostasy and tectonics  
archaeological data in sea level studies  
rapid sea level changes  
advances in techniques and applications for sea level analysis  
coastal dynamics and human activities

## 1. GENERAL INFORMATION

### 1.a Purpose

Scientific communications and posters will contribute to define a complete and detailed synthesis of latest advances in studies on sea level changes during the Late Quaternary and their implications on coastal geological systems evolutions and dynamics.

### 1.b Programme

The Conference is composed by three days of scientific communications, a permanent poster section and half a day field trip. The following four field trips illustrate the most important and classical sites of Quaternary and coastal geomorphology studies (geological heritage) occurring along the southern Puglia coast.

### 1.c Location and climate

Otranto is located in the southeasternmost part of Italy, at Puglia region. It is about 800 km from Rome, about 200 km from Bari, capital of Puglia region, and 45 km from Lecce, capital of the district.

Puglia region is one of most touristic regions of Italy. The coastal area is studded by splendid

beaches and astonishing landscapes made precious by the heritage of the numerous civilizations which traversed Puglia region during prehistoric and historic times.

The food is superb and represented by a regional diet composed by typical type of pasta (orecchiette and fischiaruli), vegetables, typical cheese, fish and meat.

Puglia region shows a Mediterranean climate, characterized by a dry and warm summer and a moderately rainy winter. Weather in September isn't very warm; the maximum temperature in September is about 26 °C, the minimum about 18 °C. Rains are rare in this period and generally represented by short showers.

The sea surface temperature at the end of September is of about 22 °C, still suitable for swimming.

### 1.d Conference Location

The conference will be held at the Aragonese Castle located in the historical centre of Otranto. Otranto is a little town located at 1.15 hour from the Brindisi airport which is connected to all main international airports of Italy. During the summer season, direct flights are also available from some European cities.

The nearest railway station is in Lecce, about half an hour from Otranto, connected to the main Italian cities by high-speed trains (Eurostar).

Bus services will be available for participants from Brindisi Airport and Lecce railway station to Otranto.

### 1.e Attendance

All interested in attending the Conference and field trips should complete a copy of the Pre-registration form attached to this document. Form may be returned

by e.mail (g.mastrozz@geo.uniba.it)

or

by fax (+39.080. 5442625)

within February 15th, 2003

The 2nd announcement with further information including a registration form will be sent by e.mail in March 10, 2003.

A detailed package of information will be sent in May 2003.

Details of Conference registration, program and other information may be accessed through the Conference web site from the 1st of December 2002 :

<http://axpmat.unile.it/IGCP437finalconference/>

## 2. REGISTRATION AND FEES

Registration deadlines and Conference fees will be announced in the 2nd announcement to be sent in March 10th, 2003.

3. FINANCIAL ASSISTANCE

A limited number of conference-fee grants may be provided for qualified students and/or attendees from developing countries, who are unable to receive funding from their own institutes. Request may be directed to Prof. Dr. Colin Murray – Wallace, Project Leader IGCP Project 437 (e.mail: colin\_murray-wallace@uow.edu.au School of Geosciences, University of Wollongong, NSW, 2522, Australia)

4. SCIENTIFIC CONTRIBUTIONS

The official language of the Conference is English. Deadline for the submission of an extended abstract of the scientific communication is March 31, 2003.

Abstract must include not more than four pages with Author(s), Institution(s), text, one figure (photo or picture) and references. More informations on abstracts format will be included in the 2nd announcement.

5. DEADLINES

Pre registration: February 15th, 2003  
2nd announcement: March 10th, 2003

Abstract/poster submission: March 31th, 2003  
3rd announcement: April 30th, 2003  
Registration: May 30th, 2003  
4th announcement: June 20th, 2003

6. ORGANIZERS

Dott. Giuseppe Mastronuzzi  
Dipartimento di Geologia e Geofisica  
Campus Universitario  
Via Orabona, 4  
72017 – Bari  
tel.: 0039.80.5442634  
fax: 0039.80.5442625  
cell.: 0039.348.2235872  
e.mail: g.mastrozz@geo.uniba.it

Prof. Paolo Sansò  
Dipartimento di Scienze dei Materiali  
Campus Universitario  
Via Per Arnesano  
73100 - Lecce  
tel: 0039.832.320556  
fax: 0039.832.320548  
e.mail: paolo.sanso@unile.it

### Pre-Registration form

Project IGCP 437 - Final Conference - Puglia 2003 –  
Otranto / Taranto - Puglia (Italy)  
22-28 September 2003  
International Conference on “Quaternary coastal morphology and sea level changes”

(to be sent within February 15th, 2003)

Last Name:

First Name:

Title:

University/Institution:

Address:

City:

Postal Code:

State/Province:

Country:

Phone:

Fax:

e.mail:

- |   |          |            |
|---|----------|------------|
| - I would like to receive the second announcement | yes ___  | no ___     |
| - I would like to attend PUGLIA 2003              | yes ___  | no ___     |
| - I would like to give one presentation           | oral ___ | poster ___ |

Title: \_\_\_\_\_

Please complete the pre-registration, attach it to an e.mail (WORD document, Text file, jpeg file, RTF file) and send it to Dr. Giuseppe Mastronuzzi at this e.mail address g.mastrozz@geo.uniba.it <mailto:g.mastrozz@geo.uniba.it> or to this fax number: 0039.080.5442625 at the Dipartimento di Geologia e Geofisica, Università degli Studi di Bari, Italy no later than February 15th, 2003.



## 第8回第四紀研究連絡委員会議事要旨

日時：平成14年11月8日(金) 13:00-15:30  
 会場：日本学術会議会議室  
 出席者：町田 洋(委員長), 赤羽貞幸, 海津正倫, 小泉 格, 斎藤文紀, 中村俊夫, 真野勝友, 吉川周作  
 欠席者：岩松輝, 斎藤亨治, 坂上寛一, 奥村晃史

議事に先立って, 委員長より長期海外出張となった小野昭委員に代わって松浦秀治氏が委員になられたことが紹介された。

### 報告事項：

1) 学術会議の改革問題(中間まとめ)(第四紀通信9-6に掲載予定)この件について委員長より以下の説明があった。

学術会議の改革(学術会議の在り方)の検討は昨年より始まり, 来年には結論が出される予定になっている。この検討は政府側では総合科学技術会議の「専門調査会」が, 学術会議では運営審議会付置の「委員会」とが独立して検討を行ってきたが, このほど「中間のまとめ」が双方から出された。

それによると学術会議のもつ役割については双方での意見が一致していたが, 設置形態, 会員数や選出法などの諸点で異なっていた。このため, 学術会議ではこれらの状況を広く理解してもらうために, さる10月29日に会員, 研究連絡委員長や関係学協会等に対し検討経過の説明会を行った。

この件は第19期会員選挙が来年に迫っていることもあり, 急を要することもあるので, 今後の推移は関係情報誌やHP等を通じて逐次連絡することになった。また, 専門調査会HPでも詳しいことが報じられることになっている。

### 2) 学術会議の自己評価

学術会議は自己評価を行うため各研連に対し活動状況を示す自己点検報告を求めていた。本研連も書式に沿って, 活動目標, その理由, 達成方法, 成果, 学・協会との連携状況, 活動の公開状況等16項目にわたる自己評価表を作成し, 報告したとの報告が委員長よりあった。

3) 11月5日に学術会議で地質科学総合研連が開催された(委員長報告)

その直後, 同じ会場で, 研連と地質科学連合関連学協会との懇談会が行われた。これは先の学術会議の改革の中間まとめに関連して, 今後の学術会議の行方について, 主として学協会側が研連委員に質問や憂慮等について答える形で行われた。また, 研連と関連学協会との共催シンポジウムは地学教育に関するテーマで開催する準備を進めていくことになった。

4) INQUA日本招致WGの最近の活動状況の報告があった。

来年Reno(U.S.A.)で開催される第16回INQUA大会に派遣する日本代表者の選挙が行われた。委員の間で投票が行われ, 第1位に奥村晃史委員, 第2位に斎藤文紀委員が選出された。

### 2) INQUAの新体制

規程により2期以上Commissionが継続することはできないので大部分入れ代わる。したがってこの機会に機構の改革が企画されて次のような案が提出された。これに対する意見が求められている。

これまで12あったCommission, subcommission, working groupは3つのレベルに分けられる。Top levelにくるCommissionは次の5である。1) Human evolution and Paleoeology, 2) Paleobiology, 3) Paleoclimate, 4) Stratigraphy and Chronology, 5) Terrestrial Deposits and Chronology。

次のSub-levelにくるのが, これまでの多くのCommissionに相当するもの。さらにこの下にCore projectsが新たに設けられる。そしてできるだけ多くのCommissionにまたがる学際的なprojectが評価されるもので, Secretaryを通じてfundの申請ができる。例えば, Stage-11, Paleodiversityなどがこれに当たる。

これらのことは日本の第四紀学会の将来計画にも関連することなので日本でも熟考する必要がある。Reno以降に備えて, INQUAに向けて準備していったはどうだろうか。学会とも連携して進めていく必要がある。

なお, 上記改革案を含めて, 全体にわたって意見を出すよう求められている。上に挙げられた5つのCommissionについては中にはその名称には新鮮味がないものもいくつかあるとの指摘もあった。こうしたINQUAの動きに対して, 日本からの提案も含めて検討していく必要がある。各委員から意見を提出し集約することになった。11月20日までに委員長に提出することになった。

### 3) INQUAの役員等の推薦

役員等の推薦依頼はまだ日本側には届いていないが, あらかじめ準備しておくことになった。副会長などはINQUA招致に絡めて候補を検討しておく。また, 名誉会員の推薦についてもこれまでの国際的な活動実績を考慮しながら選考していくことになった。

### 4) その他

中村委員より国際会議RMS-9が多くのシンポジウムやワークショップを盛り込み, 盛況の内に行われたことが報告された。

次回の研連は平成15年2~3月頃を予定する。学術会議の改革検討の状況によっては緊急に開催する必要も考えられるが, 状況によって判断することにし, 改めて詳細の日程は委員の都合により決定することになった。

(真野勝友)

### 議事(審議)事項

1) 来年度INQUA代表派遣候補の選出

## 第18期日本学術会議古生物学研究連絡委員会第6回議事録

日時：2002年5月14日(火) 13:30～17:20  
場所：日本学術会議 第6部会議室  
出席：齋藤 常正会員，野田 浩司，小泉 格，長谷川 善和，小笠原 憲四郎，辻 誠一郎，加瀬 友喜，北里 洋，大路 樹生 各委員  
欠席：八尾 昭，瀬戸口 烈司，西田 治文委員  
学術課：中野事務官

### 議 題

#### 1. 前回議事録の承認

第5回議事録案が示され，承認された。

#### 2. 学術会議報告(齋藤)

4月18・19日に総会が行われた。「日本学術会議の在り方について」，学術会議としては2500人規模のJapan Academyを目指し，その選出方法について検討案が示された。また，21世紀に学術が社会とどう関わるのかについての考えであるJapan Perspectiveを検討している。

#### 3. 第4回地質科学総合研連(野田)

「総合研連はこのたびの研連再編の検討に際し，地質科学分野の科研費審査委員候補者を選任する役割がなくなったこと，第四紀研究専門委員会と新たな応用地質もしくは環境地質専門委員会の2専門委員会で構成し，新たな実効ある活動を今期中から始動するため現在の委員を委員長一任で更新することにした。

#### 4. 平成14年度科学研究費配分委員候補者の推薦

1)分科地球惑星科学第二段委員定数(8名)が細目(7細目)よりも1名多いため，その分配方法を学術会議で検討した結果，地球物理グループと地質・地球化学グループが隔年一人多く推薦することとなり，これを了承した。

2)関連学会(日本古生物学会，日本地質学会，日本第四紀学会)からの候補者推薦資料に基づき，分科「地球惑星科学」第2段委員候補者3名，細目「層位・古生物」第1段委員候補者9名を投票により順位を付け選出し，推薦することとした。

#### 5. 博物館学芸員科研費応募申請資格に関して(野田)

古生物学会名簿(2002年版)に基づいて作成された科研費申請資格が認められていない博物館在籍研究者リストを検討し，古生物分野における博物館学芸員の現状を把握した。個人で応募することができる科研費(奨励研究B)に応募することを薦めるほか，先行して取り組んでいる自然史学会連合と連携することなどが話し合われた。次回，継続して審議することとした。

#### 6. 古生物タイプ標本の保全・データベース化(小笠原)

1)タイプ標本リスト，第2巻は日本古生物学会特別号40号として印刷，公表する。これに関して，文部科学省出版助成が認められた。また，第3巻に収録する未選出分類群の担当者を決めた。

2)タイプ標本データベースのインターネット上での公開については，どういう形で公開するのかを議論した上で，公開する方向である。

3)全国の大学・研究機関所蔵タイプ標本について，今後，その保管・管理の必要性を研連としてアピールする方向で議論を進める。

#### 7. その他

IPAに国単位での参加方式が取れるように働きかけることとした。本年7月に開かれる第一回古生物学国際会議の際に開かれるIPA総会で提案する。

次回は11月12日(火)13:30からの予定。

## 2002年度第3回幹事会議事録

日時：2002年11月9日(土)10:30-13:00 早稲田大学教育学部16号館512室  
出席：熊井久雄，真野勝友，鈴木毅彦，山崎晴雄，海津正倫，河村善也，町田 洋，中川庸幸  
欠席：小野 昭，福澤仁之，小田静夫，竹村恵二，宮内崇裕

### 1. 報告事項

庶務：受入図書(3機関から3冊)の報告。編集：「第四紀研究」第41巻5号(原著論文5編，短報2編，82頁)を刊行した(10月1日)。「第四紀研究」第41巻6号(掲載予定論文4編+年間目次，計約70頁の予定，現在校正中)の編集作業を行なった。「第四紀研究」への投稿が減少していることが報告された。行事：来年度大会の準備状況について。会計，企画：特になし。渉外：地質科学連合関連学協会開催による「日本学術会議地質科学総合研究連絡委員会との懇談会」(11月5日開催)の報告(真野副会長出席)。おもな内容は，地質科学連合関連学協会のあり方，次回シンポジウムは「地学教育」について，JABEEの状況，来年5月にミーティングがあることなど。広報：第四紀通信(QR Newsletter)第9巻5号を刊行し，第9巻6号を作成中。第四紀通信をホームページで刊行直前に閲覧できるようになったとの報告。次号第四紀通信の締切は1月上旬である。新広報委員と編集作業を分担した。第四紀研究連絡委員会：11月8日に開催された第四紀研究連絡委員会の報告がなされた。おもな内容は，学術会議の改革問題，研連の自己点検について，研連主催のシンポジウム報告，INQUAのcommission リストラについて，など。INQUA招致ワーキンググループ：招致活動の一環となるポーター氏の来日スケジュール，とくに12月6日に明治大学で招待講演が開催されることについて報告があった。

### 2. 審議事項

庶務：「第四紀研究」に対する科研費(研究成果公開促進費)申請の際の希望審査区分について検討した。編集：「第四紀研究」在庫のうち，大幅に残部のあるものについては処分することとした。広報：松下まり子会員を広報委員会委員とすることとした。その他：広報や行事幹事の作業支援のための，アルバイトのあり方について審議した。50周年企画委員会委員について審議した。第四紀学会として，各種情報伝達の一手段として，一方向型のメー

リングリスト整備の可能性を検討することとした。  
次回の幹事会は1月11日に開催，場所は早稲田大学を予定とした。

### 学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い

2000年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。2003年度(2003年8月1日～2004年7月31日)を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙(様式自由・ワープロ使用)に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教官氏名を明記のうえ、指導教官の署名または捺印を添えて、2003年4月18日(金)までに日本学会事務センターまで郵送してください。本届けが提出されない場合は、5月に予定されている会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意下さい。なお、本年度、学生会員として入会された方も提出願います。また、日本学術振興会特別研究員(PD)や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問い合わせ先：庶務幹事 鈴木毅彦  
(TEL：0426-77-2590、E-mail：suzukit@comp.metro-u.ac.jp)

送付先：〒113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9  
(財)日本学会事務センター 3階 日本第四紀学会事務局宛  
TEL：03-5814-5801/FAX：03-5814-5820

提出方法：郵便に限ります。

### 第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。広報幹事：海津正倫(umitsu@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。

お送りいただく原稿は、出来る限りテキスト(.txt)あるいはワード(.doc)形式のファイルでお願いいたします。申し訳ありませんが、マッキントッシュで編集しているため、一太郎の文章そのままでは読めません。あしからず、なお、長い文章でなければメールの本文として送っていただくのが望ましいのでよろしくお願いたします。また、表に関してはエクセル形式(.xls)形式でお願いいたします。ワードの文章中に表を作ったものは新たに表をレイアウトし、作り直すために編集時間が大幅にかかります。今のところ一人で家内工業的に作業を進めていますので、なるべく省力化にご協力下さるようお願いいたします。なお、写真はjpg形式のものを添付ファイルでお送りいただけると幸いです。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締切、偶数月1日発行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15～20日頃にはホームページにアップするよう努力していますのでご利用下さい。

第四紀学会広報委員会 名古屋大学環境学研究科地理学講座 海津正倫 (e-mail:  
umitsu@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp)  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel: 052-789-2270 Fax: 052-789-2272

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr> から第四紀通信バックナンバーのPDF ファイルを閲覧できます。